

個人所属アエロスパシアル式AS350B型JA6050の
航空事故調査について
(経過報告)

令和4年2月17日
運輸安全委員会（航空部会）

運輸安全委員会は、令和3年3月23日、個人所属アエロスパシアル式AS350B型JA6050がエンジン停止のため長野県小県郡青木村夫神の農道に不時着した際に機体が損傷して機長及び搭乗者5名が負傷した航空事故について、令和3年3月から原因を究明するための調査を進めてきたところであるが、これまでの調査で得られた情報をもとに、さらに事実の確認や分析を進める必要がある。このため、本件調査については、本事故が発生した日から一年以内に調査を終えることが困難であると見込まれる状況にあることから、運輸安全委員会設置法第25条第4項の規定に基づき、以下のとおり当該調査の経過を報告する。

なお、本経過報告の内容については、今後、新たな情報の入手等により、修正されることがあり得る。

また、本調査は、本件航空事故に関し、運輸安全委員会設置法及び国際民間航空条約第13附属書に従い、航空事故及び事故に伴い発生した被害の原因を究明し、事故等の防止及び被害の軽減に寄与することを目的として行われているものであり、本事故の責任を問うために行われているものではない。

1. 航空事故の概要

個人所属アエロスパシアル式AS350B型JA6050は、令和3年3月23日（火）、東京ヘリポートを離陸し、長野県北安曇郡松川村の松川場外離着陸場に向けて飛行中、長野県小県郡青木村付近上空でエンジンが停止したため、同村夫神の田んぼの中の農道に不時着した。接地の際、機体は大破し、機長を含む搭乗者全員が負傷した。

2. 調査の概要

運輸安全委員会は、令和3年3月23日、本事故の調査を担当する主管調査官ほか2名の航空事故調査官を指名した。現時点までに関係者からの口述聴取、機体調査、エンジンの分解調査等を実施した。

本調査には、事故機的设计・製造国であるフランスの代表が参加している。

3. 判明している主な事実情報

(1) 飛行の経過

当該機は、機長を含む計6名が搭乗し、08時41分頃、東京ヘリポートを離陸し、長

野県北安曇郡松川村の松川場外離着陸場に向けて飛行していた。長野県小県郡青木村付近上空でエンジン・チップの警告灯*1が点灯、その後エンジンが停止したため、09時33分頃、同村夫神の田んぼの中の農道に不時着した。接地の際、機体は大破し、機長を含む搭乗者4名が重傷、2名が軽傷を負った。火災は発生しなかった。

(2) 死傷者

操縦者 重傷（骨折）

同乗者 重傷3名（骨折）、軽傷2名（打撲）

(3) 航空機の損壊

大破

機体天井部及び下部構造部材の座屈、左右ドア脱落、風防破損、後部外板変形、スキッド・クロスチューブ変形及び破断、エンジン破損



図1 事故機

(4) 気象

当日の事故現場の天候は晴れ、風速は3.0 m/s程度、風向は東風であった。

4. 今後の調査

本航空事故の原因及び本航空事故に伴い発生した被害の原因の究明並びに事故の再発防止策の検討のため、これまでの調査で得られた情報をもとに、更なる事実確認や分析のほか、原因関係者からの意見聴取及び調査参加国への意見照会を行う予定である。

本委員会は、これまでの調査、分析等によって得られた結果を踏まえて、引き続き本航空事故の原因等調査を進める。

*1 エンジン損傷等でオイル系統内に細かな金属片・金属粉が発生したとき、磁石でそれらを吸着させて電気回路を形成し、乗員に機体状況を知らせる表示灯。